

業界の常識を覆す! 1人屋台方式でリードタイム半減に成功

ベルザ

ベルザ(神奈川県海老名市)は、義歯や歯冠修復物(詰め物や被せ物)などの加工・製造業である。CAD、CAMを使った義歯の設計といった新たな取組みを進める一方、現場では歯科医院から患者に合わせてオーダーされた製品を、歯科技工士がほぼ手作業で作っている。まさに個人の技・コツ、経験が物をいう世界だ。

そんな「職人集団」が改善活動に取り組み始めたのは半年前から。「改善活動を通して、この業界を変えたい!」という、福岡正雄社長と、技工部義歯課の山根洋吉氏に話を伺った。

—改善活動を始めたきっかけを教えてください。

福岡 歯科技工の業界では手作業がほとんどで、一般企業のような機械化や効率化は難しいとされています。また、この業界ではムダはないことになっているんです。手待ち時間も製作に必要なゆとりだと考えられ、残業も当たり前。そんな中、以前から交流のある地元企業の方から神奈川産業振興センター(KIP)が主催する「現場の



ベルザ本社製作所の皆さん

ムダとり実践講座」の話を聞き、「業界では無理といわれていることに取り組んでみよう」と、参加を決めました。

—受講してみたの感想は。

山根 一般企業とは違い、ほぼ手作業なため、講座で使われている「仕掛品」「ロット」などの言葉がわからず、世界が違うと思いました。何もできない、わからない自分が悔しかったです。当初はついて行くのが精一杯でしたが、何か1つでも持ち帰ってうちの会社で生かそうと思っていました。

—自社の改善では、まず何から取り組みましたか。

山根 座学で学んだ「トヨタの7つのムダ」を現場に照らし合わせてみたところ、「手待ちのムダ」が多いことに気づきました。また、「ムダを削減するなら半分にする」という理念を本で学び、主力商品である金属を使わない入れ歯「シルキーデンチャー」の納期を、4日から2日に短縮することに挑戦しました。

「シルキーデンチャー」の製作工程は、設計、配列(医師の指示に

「言葉がわからない」ところからスタート